

アルティメット競技者における消費性向分析

中本 譲 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)
指導教員 吉倉 秀和

キーワード： 消費 自由裁量所得 消費性向 アルティメット

1. 緒言

近年、スポーツ用品は競技者の技術・戦術・戦略の進歩により機能性、競技能力を左右させる機能など様々な変化をしている。しかし、アルティメットでは専用用品が少なく、サッカー用品や野球用品を代用している。その中で、シューズはアルティメットに必要不可欠であり、様々なブランドから非常に多くの種類が販売されている。また、アルティメット競技は社会人と学生が同じ競技レベルで試合を行う。

そこで本研究では、①競技歴やチームとしての競技力、自由裁量所得が消費性向にどのように影響を与えるのか明らかにし、②アルティメット競技者が使用するスポーツ用品及び、アルティメット競技者がどのような消費性向であるかを明らかにすることを目的とする。また、本調査結果を国内メーカーのClub Juniorと共有し、本研究がスポーツメーカーに対するアルティメット専用用品に関する商品開発及び販売につながることを目指し、アルティメット競技の確立を目指す。

2. 研究方法

【調査対象】

全日本アルティメット選手権大会参加者 502 名で有効回答数は 390 部であった。

【調査日】

2012 年 9 月 15 日～17 日

【調査方法】

質問紙によるアンケート調査

【調査項目】

- 1) 個人的及び購買行動概要を問う項目 (11 項目)
- 2) 主要用品 (スパイク・手袋・サングラス・帽子・リストバンド) に関する項目 (27 項目)
- 3) アルティメット環境に関する項目 (13 項目)
- 4) アルティメット競技に対する要望 (1 項目)

3. 結果

表 1. クラスター毎の特性

| 項目 | 【Cluster1】 n=197/57.3% | 【Cluster2】 n=80/23.3% | 【Cluster3】 n=67/19.5% | 検定 |
|--------------------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------------|-----------------------|
| アルティメット競技歴 | 45.49ヶ月 (SD: 48.53) | 37.83ヶ月 (SD: 41.24) | 48.05ヶ月 (SD: 47.11) | $\chi^2=812.25^{***}$ |
| 自由裁量所得金額 | 36931.71円 (SD: 37903.90) | 40000.00円 (SD: 29344.15) | 60857.14円 (SD: 83634.80) | F=5.08** |
| 1ヶ月平均でアルティメットに使うスポーツ用品費用 | 3629.44円 (SD: 10290.57) | 4110.00円 (SD: 6870.20) | 3425.37円 (SD: 4587.74) | n.s. |
| スパイク回平均費用 | 6210.66円 (SD: 3145.70) | 6318.50円 (SD: 3042.43) | 7192.30円 (SD: 3090.29) | n.s. |
| 1年間のアルティメット用品費用 | 23401.02円 (SD: 21590.03) | 28025.00円 (SD: 22277.29) | 37761.19円 (SD: 47234.77) | F=6.36** |
| 1年間のアルティメット用品以外費用 | 78451.78円 (SD: 29281.6) | 185325.00円 (SD: 32903.30) | 349253.70円 (SD: 111345.90) | F=597.43*** |
| 手袋交換頻度 | 13.11ヶ月 (SD: 8.46) | 10.90ヶ月 (SD: 6.07) | 10.65ヶ月 (SD: 9.19) | n.s. |
| 競技の手袋使用あり | 60.4% | 50.0% | 65.7% | $\chi^2=11.17^{**}$ |
| 競技の手袋使用なし | 39.6% | 50.0% | 34.3% | |
| 競技のサングラス使用あり | 12.2% | 16.3% | 16.4% | $\chi^2=178.79^{***}$ |
| 競技のサングラス使用なし | 87.8% | 83.8% | 83.6% | |
| 競技の帽子使用あり | 38.6% | 52.5% | 40.3% | $\chi^2=8.48^{**}$ |
| 競技の帽子使用なし | 61.4% | 47.5% | 59.7% | |
| 競技のリストバンドあり | 6.1% | 13.8% | 19.4% | $\chi^2=215.07^{***}$ |
| 競技のリストバンドなし | 93.9% | 86.3% | 80.6% | |

***P<.001, **P<.01, *P<.05

4. 結論

本研究を行うに際し、アルティメット競技に関する先行研究が少なく、アルティメット競技の環境をより確立する為には、重要な研究であった。本研究は、学生選手「66%」社会人選手「34%」だったものの3つのセグメントに分ける事ができ、「Standard Ultimate Athlete」「Student Ultimate Athlete」「Active Ultimate Athlete」とそれぞれ命名した。また、アルティメット競技に対する要望を自由記述で求めた結果、主に開催会場を定期的に変更する事や予選会場と本選会場を統一する事やエントリー費に関する要望で半数を占めた。

これからこの研究結果を国内アルティメット用品メーカーである(株)クラブジュニアに共有することに加え、JFDAにもこの研究結果を共有していきたいと考えている。

5. 参考文献

ケインズ著, 山形浩生編 (1936) 雇用と利子の一般理論. 消費性向の主観的要因